

韓国の日本語教材制作の一例

国際交流基金制作教材を参考にしたものを中心に

発表者：朴且煥（高明情報産業高等学校 教諭）

教材名：

『EBS 衛星 1 TV 高校日本語講座』2000 . 2 ~ EBS 教育放送

『EBS 修能特講日本語』2002 . 2 ~ EBS 教育放送

「修能」とは「大学修学能力試験」の略語で、日本の「センター試験」にあたる。

『C&C Japanese』2003 . 8 韓国学術振興財団助成

『EBS 衛星 1 TV 高校日本語講座』と『EBS 修能特講日本語』

1 . 制作の背景とニーズ

- 1) 2001 学年度から大学修学能力試験(以下、「修能試験」)の選択科目として「日本語」を導入
- 2) 教育放送のテレビ放送用教材開発の必要性

2 . 制作過程

- 1) 高校の教育課程「日本語」の内容とレベルに合わせる
- 2) 『教科書を作ろう』を参考にする

3 . 内容

- 1) 学習目標は「意思疎通能力」の伸長
- 2) 学習内容は、文字と発音、語彙、文法、意思疎通機能、文化に 5 分類
12 種の第 6 次高校日本語検定教科書を分析、基本語彙 771 語及び機能例示文 73 文を適用
- 3) 各課は、学習項目提示、例題(単元総合問題)、実践模擬テストで構成

4 . 使い方

- 1) 予習 テレビ視聴 復習
- 2) 利用媒体
TV 再放送、TV 総合編放送、インターネット放送、電話学習

< 『教科書を作ろう れんしゅう編』を参考にした部分 >

「11-6 どうなるとおもいますか」

「11-5 昔のまち・今のまち・将来のまち」

9 다음 그림을 보고 상상할 수 있는 글로 어울리지 않는 것은?

① 男の人は 旅行に 行きます。
② やっと 電車に まにあいました。
③ 電車に 乗る こと が でき ませ ンで した。
④ ちがう ところ に 行く 電車 だっ た から びっく り し ま した。
⑤ きっぶ が ない こと が わかっ て びっく り し ま した。

[26-27] 다음 글을 읽고 물음에 답하시오.

〈むかし〉

- ・高い たても の が あり ませ ンで した。
- ・木 が おお っ た で す。
- ・人 が あま り いませ ンで した。
- ・まちは しずか だっ た と おも い ま す。
- ・まちは あま り にぎ や か で は なかっ た と おも い ま す。

〈今〉

- ・高い たても の が あり ま す。
- ・車 が おお い で す。
- ・ある い て い る 人 が おお く な り ま した。
- ・まちは にぎ や か で す。

5. 制作物への評価

- 1) 修能試験受験書の先駆的な役割
- 2) 修能試験問題に EBS 教材の内容を積極的に反映させるという「韓国教育課程評価院」の方針
- 3) 高校で副教材として採択され、修能試験で日本語選択の学生が購入

今後の課題としては、

- 1) 難易度の調整 (高から低へ)
- 2) 意思疎通機能に関する出題の改善

『C&C Japanese』(http://www.sunmoon.ac.kr/~edu/jp/index_j.html)

1. 制作の背景とニーズ

- 1) 初級から中級までの日本語学習者を対象とした ICT 教材の必要性が高まる
*最終的に本教材は、上級までを対象とした
- 2) 韓国学術振興財団から助成を受ける

2. 制作過程

- 1) 大学教員と高校教員の共同開発
安容柱 (鮮文大学) 朴才煥 (京畿大学) 朴且煥 (高明情報産業高等学校)
- 2) 『写真パネルバンク』の項目分類、説明文の一部を参考にする

3 . 内容

- 1) 学習目標は日本語会話力の伸長、異文化理解
- 2) 構成は、以下の通り



3) 学習内容の文化区分は、以下の通り

衣食住と余暇 (衣、食、住、遊)

社会生活 (交通、医療、通信とサービス、教育と行政)

行事とスポーツ (年中行事、祭り、冠婚葬祭、スポーツ)

日常生活 (食事、勉強と趣味、交際、アルバイト)

4) その他

- ・会話内容に文化的トピックを取り入れている
- ・会話文には日本語字幕と韓国語字幕をつける
- ・音声は、「会話」と「異文化理解」は日本語母語話者が、「文法」の説明は韓国人講師が担当
- ・「深化学習」では、日本のサイトにリンク
- ・クイズやゲームなどを取り入れる

4. 使い方

1) 学習コースは全部で 16 コースあり、順次学習も選択学習も可能

2) 「事前テスト」の結果で、40 点以下は初級、45~75 点は中級、80 点以上は高級レベルへ進む。(配点は、1 問 5 点)

* 螺旋形構造なのでレベル間の出入りは容易

3) 「評価」の結果次第で上のレベルへ進むことができる

5. 制作物への評価

1) 大学生向けの ICT 教材としては最初のもの

2) 主なターゲットは大学生だが、高校生や一般人も学習可能

3) 自律学習を可能にしている

4) 日本語学習への興味を誘発している